

| 授業科目名 | 緩和ケア | | | 担当教員 | 中村 光江 | |
|----------------------|---|------------|--|----------|--------------|--|
| 開講年次 | 2年前期 | セメスター | 3 | 時間数(単位数) | 15 (1) | |
| 必修選択 | 選択 | 授業形態 | 講義 | 使用教室 | | |
| 授業の目的 | 苦痛を有する患者および家族の特徴を理解し、患者や家族にとってできる限り望ましいQOLを実現するために必要な理論、ケア技術について学ぶ。また、緩和ケアチームにおける看護職者の役割を理解する。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. 緩和ケアの意義と特徴を理解できる。 2. 生命を脅かす病苦を持つ人およびその家族の特徴を理解できる。 3. エンド・オブ・ライフケアについて考察できる。 4. チームによる緩和ケアを学び、看護の役割について考察できる。 5. 緩和ケアに関する課題、特に倫理的課題について考察できる。 | | | | | |
| ディプロマポリシーにおける科目の位置づけ | 苦痛を有する人々と家族、特に生命を脅かす病苦を持つ人々とその家族が、どのような苦悩の中にあるのかを学び、十分に意思を表現できない状況にある人々を擁護する役割について学び、「人間の尊厳と権利を擁護する力」を向上させる。また、病苦を持つ人の全人的苦痛をアセスメントし、その苦痛を取り除くケアを学ぶことは「問題解決力」の向上につながる。 | | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連 | 人間の尊厳と権利を擁護する力 | 自己教育力 | チームで働く力 | 問題解決力 | 看護の専門性を探究する力 | |
| | ○ | | | ◎ | | |
| 授業計画 | | | | | | |
| 回 | 授業内容 | 授業方法 | 学修課題 (予習・復習) | 取組時間 | 担当者 | |
| 1 | 生と死、看護師の姿勢 緩和ケアの特徴と意義、歴史 エンド・オブ・ライフケア | 講義 | 復習：テキスト第Ⅰ章の1, 2, 3, 5 (p.2-14,21-24)、第Ⅱ章はじめに (p.52-56)を精読。 シシリー・ソンドース、キューブラ ラ・ロスについて調べる(業績を含む) | 2時間 | 中村 | |
| 2 | 生命を脅かす病苦を持つ人の特徴 全人的苦痛のとらえ方 チームアプローチと看護の役割 * 復習課題提出 | 講義 | 復習：テキスト第Ⅰ章の2.4 (p.4-8、 15-23)を精読。 グループワーク課題 | 45分 | 中村 | |
| 3 | 症状緩和の実践方法(1) グループ発表 症状のメカニズムと緩和 日常生活を支えるケア | 演習 (発表) | 予習：グループ発表準備。 復習：テキスト第Ⅲ章 (p.102 - 175)を精読。 | 2時間 | 中村 | |
| 4 | 症状緩和の実践方法(2) グループ発表 症状のメカニズムと緩和 日常生活を支えるケア | 演習 (発表) | 予習：グループ発表準備。 復習：テキスト第Ⅲ章 (p.102 - 175)を精読。 | 2時間 | 中村 | |

| | | | | | |
|--------------|---|------------|---|-----|----|
| 5 | 症状緩和の実践方法 (3) グループ発表のまとめ スピリチュアルケア バッドニュースを伝えるコミュニケーション | 講義 | 予習：グループ課題 復習：テキスト第II章の2と5 (p.65-76、p.94-98) を精読。 | 45分 | 中村 |
| 6 | 緩和ケアに関する倫理的課題 様々な場における緩和ケア 意思決定を支えるケア | 講義 | 復習：テキスト第I章の7 (p.36-48)、 第II章の2 (p.65-76) を精読 | 1時間 | 中村 |
| 7 | 看取りのケア 死が近づいた時のケア グリーフケア 緩和ケアおよびエンド・オブ・ライフケアの動向 | 講義 | 復習：テキスト第II章の3, 4 (p.77-93)、 第IV章 (p.177-201)、 第VII章 (p.275-287) を精読 | 1時間 | 中村 |
| 8 | 緩和ケアの実際 がん看護専門看護師の実践から 学ぶ (DVD) | 講義 (GW) | 復習：科目全体の総復習 | 1時間 | 中村 |
| 先行履修 科目 | | | | | |
| テキスト | 梅田恵・射場典子 編：緩和ケア 改訂第2版. 南江堂, 2018. | | | | |
| 参考文献 | kubler - Ross, E. : On Death and Dying. 1969, 鈴木晶 訳：死ぬ瞬間—死とその過程について, 中央公論新社, 2001. 広瀬寛子：悲嘆とグリーフケア. 医学書院, 2011. 小西恵美子編：看護倫理 改訂第2版. 南江堂, 2014. 鈴木志津枝・内布敦子編. 緩和・ターミナルケア看護論, 2011. NHK エンタープライズ：がん看護専門看護師 田村恵子の仕事 希望は、必ず見つかる, 2009. (DVD) | | | | |
| 評価方法 | 試験 (70%)、提出物 (10%)、授業やディスカッションへの参加 (10%)、グループ発表 (10%) | | | | |
| 教員等の 実務経験 | 緩和ケア、ターミナルケアの分野で看護師としての臨床経験を持つ教員が講義を担当する。 | | | | |
| メッセージ | 現在の日本は超高齢社会、つまり多死社会です。自身の終焉について考える人々が増え、緩和ケアやエンド・オブ・ライフケアへのニーズも高まっています。本科目では既習の看護学およびその他諸学の知識を活かして、緩和ケアおよびエンド・オブ・ライフケアについて考えます。自らの死生観および看護者としての姿勢を問い直し、より深い人間理解に基づいた看護を目指しましょう。 | | | | |